

県内復興・経済日誌（2019年2月）

1日

《県水産資源研究所、漁業復興へ本格稼働》

県が相馬中核工業団地（相馬市・新地町）に栽培漁業の拠点として整備した県水産資源研究所の完成記念式典が行われ、施設が本格稼働した。ヒラメやアユなどの稚魚を育てて順次放流し、本県漁業の復興を推進する。成育を早めるため、近くにある相馬共同火力発電新地発電所の温排水を利用する。

4日

《福島送電に事業許可、再エネ電力供給へ》

本県全域を未来の新エネルギー社会のモデル創出拠点とする国の「福島新エネ社会構想」で、経済産業省は福島送電合同会社（福島市）に対し、発電事業者の発電した電気を一般送配電事業者に供給する「送電事業」を許可した。同社は2020年1月から、阿武隈山地や沿岸部に整備中の送電網の一部で運用を始め、風力や太陽光などによる電気を東京電力パワーグリッド（東京都）に供給する。

6日

《県内外国人宿泊者数、震災後初10万人超え》

県は、2018年1月～11月の県内の外国人延べ宿泊者数が11万2,430人泊（前年同期比22%増）と東日本大震災以降で最多になったことを、県議会交流人口拡大・過疎地域等振興対策特別委員会で報告した。県は、福島空港発着の国際チャーター便の増加や、本県と茨城、栃木両県と東京都を結ぶ新観光ルート「ダイヤモンドルート」を活用した広域観光が浸透してきたことが要因と分析している。

8日

《2018年訪日旅行者人気上昇ランキング、伸び率本県2位》

旅行予約サービス「楽天トラベル」が、2018年訪日旅行（インバウンド）人気上昇都道府県ランキングを発表し、本県は前年同期比184.6%増で全国で2番目に伸び率が大きかった。JR只見線から見た風景が会員制交流サイト（SNS）を通じ、中国、台湾、タイなどで話題となった。

さらに桜の名所として、花見山公園（福島市）や三春滝桜（三春町）が人気となり人泊数（宿泊人数×宿泊数）を伸ばしたとみられる。

10日

《「復興応援・復興フォーラム」東京で開催》

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の記憶の風化を防ぐイベント「復興応援・復興フォーラム」が東京国際フォーラム（東京都）で開かれ、復興へ歩む姿や各県の魅力を発信した。加工品や菓子など各県の特産品を販売したほか、観光の見どころなどを伝えた。東京都と福島、宮城、岩手、青森の4県が主催した。

13日

《東電、第一原発2号機で初の接触調査を実施》

東京電力は、福島第一原発2号機で原子炉格納容器内に溶け落ちた核燃料（デブリ）の初の接触調査を実施した。格納容器底部に堆積しているデブリとみられる小石状の堆積物を持ち上げることに成功し、移動可能な状態だと分かった。原発事故発生以降、デブリの性状の一部が明らかになるのは初めてで、東電が2019年度後半に計画している試料採取の実現に向け、重要なデータとなる。

14日

《新規高卒就職内定率、過去17年間で最高に》

3月卒業予定の県内高校生の就職内定率は1月末時点で98.1%と、前年同期に比べ0.3ポイント増え、過去17年間で最高となったと県が発表した。就職希望者4,892人のうち4,801人の就職が内定した。このうち、県内企業に就職が決まったのは3,958人で、県内留保率は前年同期比1.7ポイント増の82.4%となった。

18日

《ポケモンの観光活用に向け連携協定締結》

県は、観光振興や県産品の消費拡大を図るため、ポケットモンスターを管理する任天堂の関連会社「ポケモン」（東京都）と連携協定を結んだ。同社との協定は2021年3月末までで、自治体としては横浜市、北海道、香川県に続き4例目。連携協定を受け、県は人気キャラクター

のひとつ「ラッキー」を「ふくしま応援ポケモン」に任命した。

《「医師偏在指数」、本県全国ワースト4位》

医師が都市部に集中する偏在問題で厚生労働省は、本県など16県が、人口や診療需要に対して適正な医師数を確保できていない「医師少数県」となっていることを明らかにした。医師の総数は31万9千人と過去最高を更新している一方、都市部と地方の格差が鮮明となった。同省は、卒業後の一定期間地元で働く大学医学部の「地域枠」を重点配分するなどして、2036年度までに問題を解消したい考え。

19日

《浪江町、避難解除後初のスーパーが今夏開業》

総合スーパーマーケットを展開する「イオンリテール」（千葉市）は、復興が進む浪江町に「イオン浪江店」（仮称）を出店することを決め、同町と環境整備に向けた覚書を締結した。7月末までには出店したいとしており、東京電力福島第一原発事故による避難指示解除後、初めてのスーパー開店となる。吉田町長は「定住促進や生活環境の充実、生業再生にとって追い風になる」と期待を寄せた。

20日

《県産品デザイン審査で「だるみくじ」が初代グランプリ受賞》

県産品の優れたデザインなどを表彰する「ふくしまベストデザインコンペティション」の最終審査が行われ、応募総数337点から初代グランプリに白河だるま総舗（白河市）の「だるみくじ」が輝いた。県が県産品の商品力強化を目的に、消費者に魅力が伝わるデザインなどの表彰制度を創設したもので、受賞商品は専用のロゴマークが使用できる。

22日

《「はやぶさ2」小惑星に着陸成功》

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、探査機はやぶさ2が午前7時29分、地球から3億4,000万キロ離れた小惑星リュウグウに着陸したと発表した。2005年に小惑星イトカワへ着陸した初号機に続く快挙で、試料採取のため表面の岩を砕く金属弾も無事発射、JAXAの久保田孝教授は「完璧なミッションができた」と語った。はやぶさ2の着陸、試料採取計画には会津大学

や古河電池いわき事業所（いわき市）が参画している。

26日

《会津若松市の2018年観光客入込数306万人》

会津若松市の室井市長は、同市の2018年観光客入込数が前年より9万4千人増えて306万4千人になったと定例議会で明らかにした。東日本大震災発生以降ではNHK大河ドラマ「八重の桜」が放送された2013年の395万9千人に次ぐもので、300万人を超えたのは3年ぶり。同市は戊辰戦争から150年の節目に、多くの人が市内の歴史的資源に触れたとみている。

27日

《復興庁廃止後も機能継承へ》

政府は、2020年度末の復興・創生期間の終了とともに廃止される復興庁の後継組織について、これまでと同様に担当大臣を置く方針を固めた。復興庁と同じく省庁横断的な組織とし、複雑化する被災地の課題に対応できるよう司令塔的な機能と体制を維持する。政府は本県復興に関し、復興・創生期間後も国が責任を持つ方針を示している。

《2018年産の米食味ランキングで、県産米2年連続日本一》

日本穀物検定協会は、2018年度産米の食味ランキングを発表し、県内産では会津産と浜通り産のコシヒカリ、会津産と中通り産のひとめぼれの4銘柄が最高評価の「特A」を獲得した。都道府県別の特A銘柄獲得数は山形、新潟両県と並び全国最多で、2年連続の日本一を達成した。

28日

《古関裕而夫妻、NHK朝ドラに決定》

NHKは、2020年春から放送する連続テレビ小説に福島市出身の作曲家、故古関裕而さんと妻の故金子さん夫妻をモデルにしたドラマを放送すると発表した。タイトルは「エール」で、1964年開催の東京五輪入場曲「オリンピック・マーチ」を作曲した古関さんと妻の物語が、「復興五輪」に位置付けられる2度目の東京五輪の開催年に全国に発信される。ドラマ化を求めてきた市民や関係者から「念願がかなった」と喜びの声が上がった。